

中部支部巡検会の報告：糸魚川-静岡構造線を訪ねて

著者	久保田 実
雑誌名	静岡地学
巻	73
ページ	53-56
発行年	1996-06-22
出版者	静岡県地学会
URL	http://doi.org/10.14945/00025220

中部支部巡検会の報告

～糸魚川－静岡構造線を訪ねて～

久保田 実*

1. はじめに

平成7年11月19日に行われた中部支部巡検会は、10名が興津駅に8時に集合し、4台の車で移動を開始した。天気は快晴、雲ひとつないおだやかな秋の日であった。案内の長島昭会員、松本仁美会員には下見の段階から大変お世話になり感謝している。

52号線を富士川沿いに1時間程のぼり、早川町に入るとすぐに早川に沿って左折する。早川は静岡の梅ヶ島よりも北にあるためか、川の両側の山々には静岡より一足先に大変きれいな紅葉がみられ、一つ得をしたような気分であった。およそ30分で新倉（あらくら）に着いた。

2. 新倉（あらくら）の断層

新倉で2つあるトンネルの初めのトンネルを過ぎてすぐに右折して細い林道に入り、早川と内河内川の合流部で、内河内川に向かうすぐの右側の崖の崩壊部分が新倉の断層である(写真1)。新倉の断層は日本列島の中央部を横断する大断層、糸魚川－静岡構造線を示す断層露頭の中でも最も見映えのする断層露頭である。崩壊部の西側(左側)は黒っぽい千枚質粘板岩がうすくはがれやすくなっている。これは古第三系瀬戸川層群の地層で約3000～6000万年前の海底堆積物である。崩壊部の東側(右側)は、断層面に沿って西側の岩体が滑り落ちたために露出したものである。断層面には緑色凝灰岩や緑泥岩・緑簾石の筋を含む緑色塩基性火砕岩類がみられる。岩石の表面には下から上への擦痕や規則正しい小さな凸凹がみられ、下から上への地層の移動が推測される。この地層は新第三系御坂層群の地層で約2500万年前の海底火山堆積物である。

この断層面の走行・傾斜は $N 22^{\circ}W \cdot 52^{\circ}W$ であった。資料によると $N 40^{\circ}W, 45^{\circ}W$ なので、西側の古い古第三

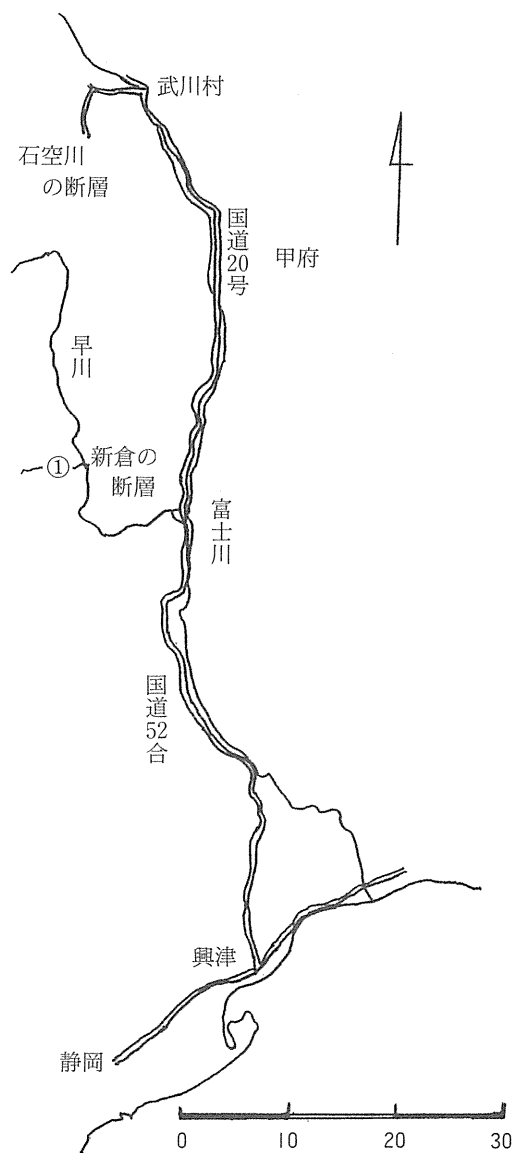


図1. 巡検ルートと糸魚川－静岡構造線の露頭位置図

* 静岡雙葉高等学校

系瀬戸川層群の地層が東側の新しい新第三系御坂層群の地層に対して相対的に上昇したことになる逆断層である。足元の内河内川では両方の地層の礫が採取できる。川にかかる橋を丁度掛け替え中でこれからは交通の便が良くなるだろう。

3. 石空（いしうとろ）川まで

早川を戻り、国道 52 号線を北上して釜無川を渡り国道 20 号線に入ると、右手に高さ 40~120 m の七里岩台地が上流に 2 km 程続いているのが見える。この七里岩台地は八ヶ岳火山の火山噴出物や安山岩の角礫を含む火山泥流・火砕流によってできたといわれている。崖の大小の礫を観察しているうちに武川村に入る。武川村に入って初めての陸橋わきにある武川村役場を過ぎると、すぐに左折して山道に入る。20~25 分程走ると精進ヶ滝遊歩道入り口の駐車場に着く。

4. 石空（いしうとろ）川の断崖

急な精進ヶ滝遊歩道を数分降りると石空川に出る。遊歩道は左側上流精進ヶ滝方向に向かうが、糸魚川-静岡構造線の露頭は右側下流 300 m 程下った右岸にある(写真 2)。露頭前の川原で遅い昼食をとる。

川沿いの谷の高さ 30 m、幅数 10 m の崩壊部分の中に露頭がある。下流側の黒色の黒色けつ岩と上流側の白色の花崗岩が断層で接しているのが確認できる。黒色けつ岩は緑色凝灰岩の厚い堆積物の下部にあたる桃の木累層（中新世前期）である。白色の花崗岩は鳳凰山花崗岩で、長石・角閃石の斑晶が多く見られる。また、大きな閃緑岩質の捕獲岩（ゼノリス）や 1~3 cm の赤いカリ長石を含むものも見られる。断層付近の花崗岩は著しく破碎され、粘土化を受けて鉱物が緑泥石化して緑色の岩石に変わったものが見られる。破碎帯は上流 100 m 位まで続いている。断層の走向は N 20°W 位である（田中によると N 13°W, 61°W）ので、上流の鳳凰山花崗岩が下流の桃の木累層に乗り上げた逆断層である。下流部 100 m 位で行われていた砂防ダム工事で露出した河床を観察する機会を得たが、河床礫の下部の露出部分は黒色けつ岩であったので、破碎帯は砂防ダムの左側から遊歩橋の左側を通っていると推定できる。この延長上にケルンコル・ケルンバットと思われる小山を確認できる。

断層の上流へは 1.2 km の遊歩道が続き、標高 1,000 m~1,700 m の間に精進ヶ滝をはじめ大小 7 個の滝がある。これらの滝は糸魚川-静岡構造線の度重なる活動により花崗岩類に断層が生じ、これが溪流の浸食によって上流に後退してできたと考えられている。

帰りに近くの国指定天然記念物、山高・実相寺の神代桜を見学した。春になって、高さ 30 m、幹の周囲 20 m の巨木に桜が咲くところを見たいものだと話ながら帰路に着いた。

参考文献 田中 収 (1987) : 「山梨県地学のガイド」、コロナ社

松本仁美 (1992) : 「山梨県武川村の糸魚川-静岡構造線をたずねて」、静岡地学、65 号

山梨県治山協会 (1962) 「山梨県地質図」

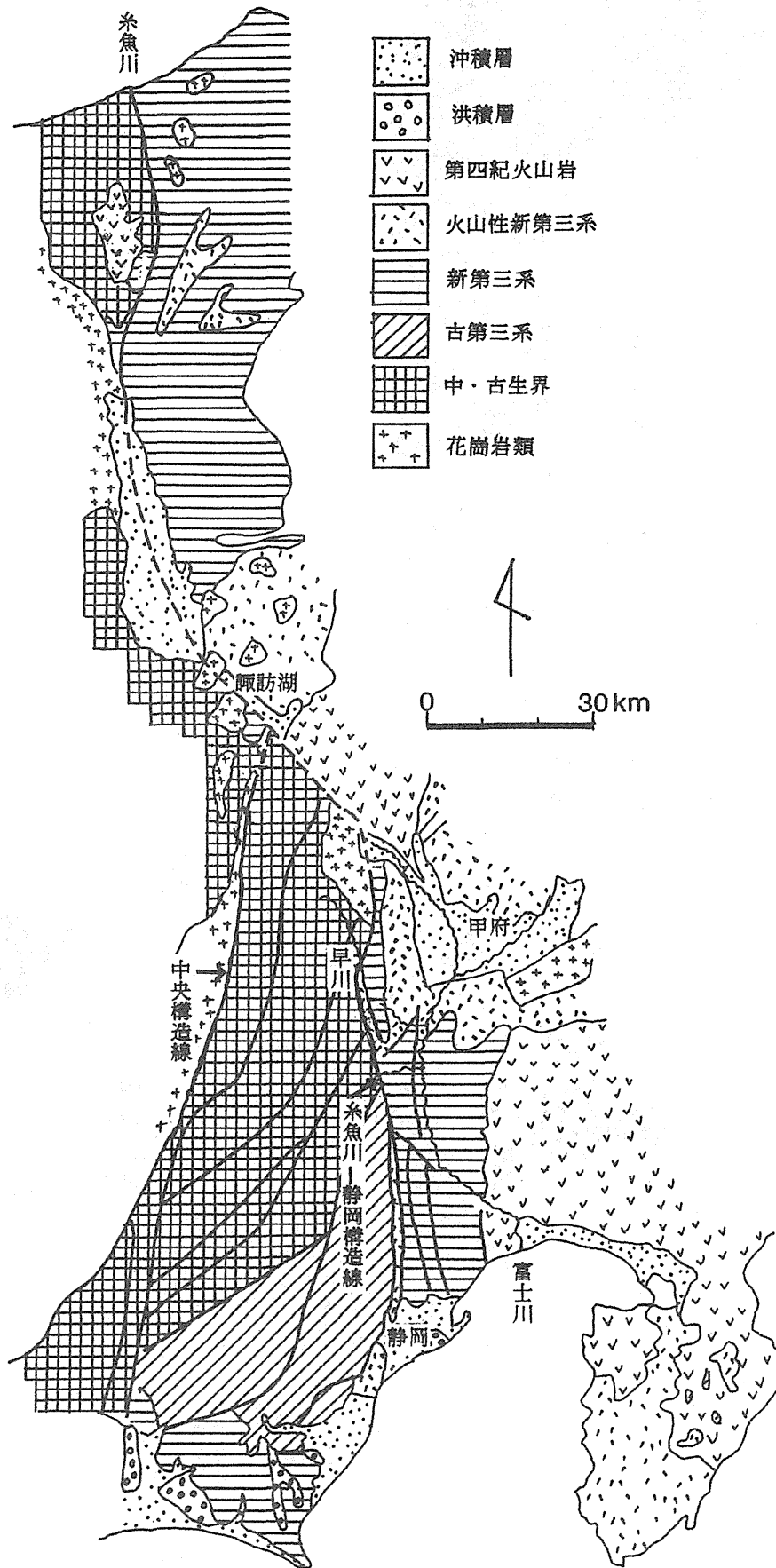


図2. 糸魚川-静岡構造線に沿った地域の地質概略



写真1. 新倉の断層

左の人がいるところは古第三系瀬戸川層群
右の黒っぽいところは新第三系御坂層群



写真2. 石空川の断層

人のいるところが断層線の位置
左の黒いところが桃の木累層
右の白っぽいところは鳳凰山花崗岩